

「地域とともにある学校づくり」



南部町立南部中学校

南部中学校の概要

- 1年生66名，2年生68名，3年生64名，全校生徒数は198名である。教職員は常勤が22名，非常勤，支援員，SCを合わせると30名である。
- 各学年2クラスと特別支援学級が1クラス
- 平成23年4月に富河中，万沢中，南部中の3校が統合し，現在の南部中学校になる。
- 学区が広く，南は静岡県に隣接し，旧富河・万沢中学区の生徒はスクールバスで通学している。

南部中学校の特色

- 統合以来「融和と創造」を経営理念とし、南部町内唯一の中学校として、町民全体から信頼される学校づくりに取り組んでいる。
- 生徒は純朴で素直な生徒が多く、授業や部活動、様々な行事に意欲的に取り組んでいる。
- 保護者や地域住民も学校に対してとても協力的である。
- 県教委より、身延高校・身延中とともに「中高一貫教育パイロットスクール候補校」に指定され、平成26年度から現在まで、相互の教員の授業サポート、行事や部活動での生徒の交流、教職員の連携などに取り組んでいる。

コミュニティスクール導入の経過

- H26年度…文科省に「コミュニティ・スクール導入事業希望調書」「事業計画書」を提出
- H27年度…「学校運営協議会設置推進事業費補助金」の決定，中央市・昭和町・甲斐市など先進校・先進教育委員会を視察，4回に渡る「コミュニティ・スクール推進会議」の開催
- **平成28年5月1日，南部町教育委員会から「学校運営協議会設置校」の指定を受ける。**

コミュニティ・スクール導入の目的

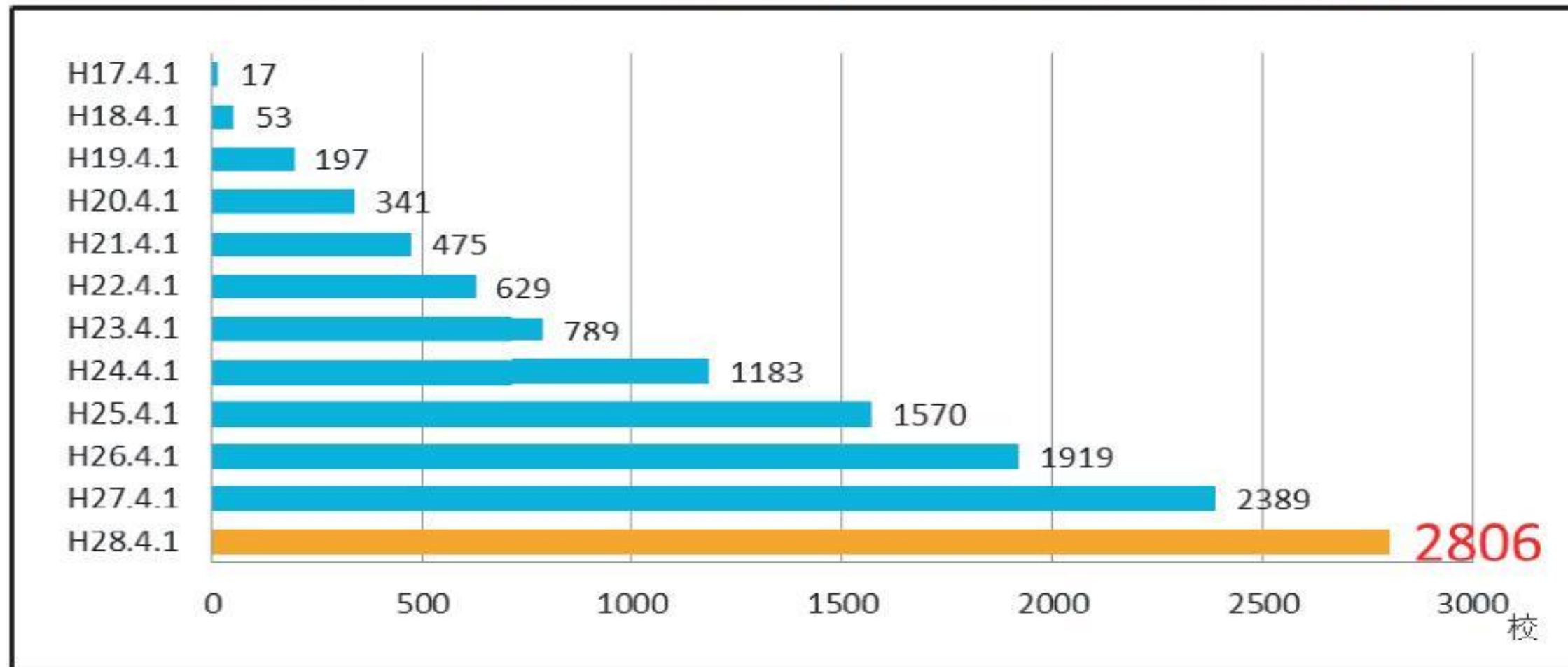
平成23年の3校統合により，通学区域が町内全域となった。学校から離れた地域と学校とのつながりが希薄に感じられるようになり，地域に密着した学校運営を実施するのに困難な状況が生まれた。

この課題を克服し，次代の南部町を担う生徒を育てる新たな学校づくりに向け，保護者や地域住民が学校運営に参画できるようにし，学校組織全体の総合力を高めるため。

コミュニティ・スクールの現状

コミュニティ・スクール：46都道府県内 2,806校（平成28年4月1日現在）

（幼稚園109、小学校1,819、中学校835、義務教育学校7、高等学校25、特別支援学校11）



コミュニティ・スクールの現状…県内では

H 2 4 . 4 . 1 指定

甲斐市立双葉西小学校

H 2 5 . 5 . 1 指定

昭和町立押原小学校

H 2 7 . 4 . 1 指定

昭和町立西条小学校，

昭和町立常永小学校

昭和町立押原中学校

H 2 8 . 4 . 1 指定

中央市立田富南小学校

H 2 8 . 4 . 1 指定

南部町立南部中学校

H 2 8 . 6 . 1 指定

山梨市立笛川小学校

県内 8 校

※平成 2 9 年度以降，指定が予定されている学校

都留市立旭小学校，上野原市立島田小学校，北杜市立泉小学校，

甲斐市立菱山小学校，大月市立初狩小学校，上野原市立上野原中学校

コミュニティ・スクールとは？

「学校運営協議会」を設置し、
学校，保護者，地域住民などが
ともに知恵を出し合い，協働し，
「地域とともにある学校づくり」を推進する学校である。

学校運営協議会の主な役割

- ① 校長の作成する学校運営の基本方針の承認
- ② 学校運営に関する教育委員会または校長に対する意見
- ③ 教職員の任用に関する教育委員会に対する意見
- ④ 学校運営協議会を中心とした学校支援活動の実施
- ⑤ 学校運営協議会による学校評価の実施

必須

任意

任意

任意

任意

南部中学校の学校運営協議会

1. 委員 ➡ 15名，任期2年，正副会長各1名

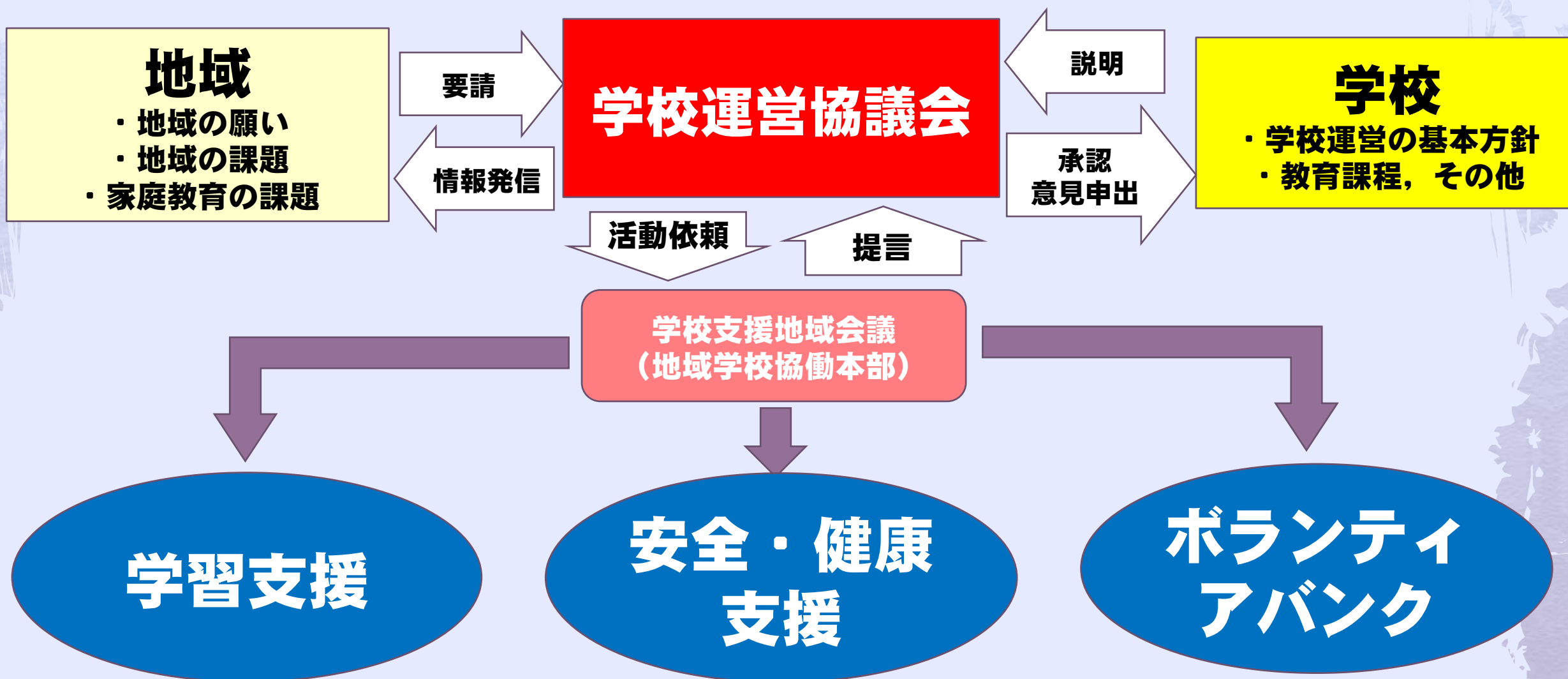
大学教授，南部・富河・万沢地区代表，主任児童委員，青少年育成南部町民会議代表，社会教育委員，女性団体代表，社会福祉協議会代表，PTA代表，歴代校長代表，町内小学校代表）

2. 会議 ➡ 年4回

3. 機能 ➡ 「南部町学校運営協議会規則・要綱」

- ① 学校経営の基本方針の承認
（教育目標，学校経営計画，教育課程，その他）
- ② 学校運営についての意見の申出（校長，教育委員会）
- ③ 学校関係者評価の実施
- ④ 地域住民の学校運営に対する参画の推進

南部中学校のコミュニティ・スクール構想図



学校教育に対しての支援活動

1 学習支援

- ◆各教科の授業に専門的知識や技能を持った講師による学習支援（TT，ゲストティーチャー）
- ◆校外での学習支援，家庭学習に対する応援
- ◆不登校生徒への学習支援（生活支援）

2 安全・健康支援

- ◆登下校時に交通事故や犯罪から生徒を守るための支援
- ◆地震などの自然災害に対する安全支援
- ◆校内での安全な生活に対する支援
- ◆生徒の健康増進に関する支援

3 ボランティアアバンク

- ◆行事の取り組みや発表に対する支援（講師やゲストティーチャー，場の提供など）
- ◆部活動での外部指導者による支援
- ◆草刈り，修繕など環境整備に対する支援

学習支援の例

なんぶ未来塾

南部町教育支援センターが主催となり、小中学生を対象に学校の学習活動の補習的学習を支援してくれます。

実施日：各月に土曜日2日2時間

講師：町内在住の教員OB

参加料：無料

授業へのゲスト ティーチャー

音楽の箏曲の指導に地域で箏を指導している先生に来ていただいたり、美術の授業のなかで、町内で活躍されている水墨画の先生に来ていただいたりして、専門的な指導をしてもらいます。

安全・健康支援の例



南部町通学路安全推進会議の取り組み

南部町では道路管理者である国交省，県，町と南部署，教育員会と学校の代表で「通学路安全推進会議」を設置しています。保護者に対し危険箇所の調査を実施し，危険箇所を点検した上で，改善措置を講じています。

地域防災会とともに 行うトリアージ訓練

東海地震が心配されている南部町では，防災の取り組みにおいても，中学生が地区防災会の方々と一緒に地区ごとにトリアージ訓練に参加しています。昨年度は富河地区，今年度は栄地区で実施します。

その他の教育活動に対する支援の例

「ふるさと探訪」

1年生では、ふるさと南部の歴史や文化財を学ぶ校外学習を実施しています。今年度は、旧南部町在住の生徒は旧富沢町の史跡や文化財を、旧富沢町在住の生徒は旧南部町の史跡や文化財を、地域の歴史や文化に詳しい方に講師をしていただき、見学を行いました。

「職業ワイド相談」

1年生では，地域の職業人7～8名程度を学校に招き，仕事の内容や働く苦勞や喜び，将来に向けてのアドバイスなどを聞く「ワイド相談」を行っています。

「職場体験学習」

2年生は、地域の様々な職場を1人から3名程度で訪れ、2日間直接仕事の内容を学び、実際に働く体験をさせていただきます。この行事では、最初の電話での依頼から、実際の職業体験、お礼状の作成まで生徒自身で行います。



「福祉施設訪問」

地域にある 6 箇所程度の福祉施設を 1 年生がグループに分かれて訪問し，そこにいる方々と交流したり，出し物を発表したりして，福祉について学ぶ機会です。

子どもにとって

- ・ 学習活動や体験活動の充実
- ・ 自己肯定感や思いやりの心が育つ
- ・ 地域の担い手としての自覚が育つ
- ・ 安心，安全な生活ができる

教職員にとって

- ・ 地域の人々の理解と協力を得た学校運営
- ・ 地域人材を活用した教育活動
- ・ 地域の協力により子どもと向き合う時間の増加

コミュニティ・スクール導入の魅力

保護者にとって

- ・ 学校や地域に対する理解がすすむ
- ・ 地域で子どもを育てる安心感
- ・ 保護者同士や地域の方々との人間関係が構築できる

地域の人々にとって

- ・ いきがいや自己有用感の創出
- ・ 学校が社会的つながり地域のよりどころになる
- ・ 学校を中心にした地域ネットワークの構築
- ・ 地域の防犯，防災体制の整備

コミュニティスクールにより期待される効果

20

(全国の導入校の調査から)

- ① 学校と地域が情報を共有するようになった。
 - ② 地域が学校に協力的になった。
 - ③ 地域と連携した取り組みが組織的に行えるようになった。
 - ④ 特色ある学校づくりが進んだ。
 - ⑤ 学校に対する保護者や地域の理解が深まった。
 - ⑥ 学校関係者評価が効果的に行えるようになった。
- その他「学校への苦情が減った」「生徒指導上の課題が解決した」「学力が向上した」などがある。